

# 第21回 MQI活動

H28年度  
MQI統一主題

**アサーション**  
—適切な意思疎通・情報伝達—



発行(公財)練馬総合病院MQI推進委員会  
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1  
TEL03-5988-2200(代)

## H28年度MQI活動 キックオフ 推進委員長 柳川達生

先日2月26日にMQI 20周年記念式典を挙行了しました。式典には、練馬区長代理、医師会副会長、品質管理関係者など多数のご来賓の方々にもご参加いただき盛会裏に終えました。

さて安堵もつかの間、21年目の活動が始まります。今年度の統一主題は、「アサーション」です。

業務遂行のうえで適切な意思疎通・情報伝達は極めて重要です。アサーション力を高めることで、組織力を向上させましょう。MQIの目的は業務改善、職員の業務遂行能力、管理能力の向上、部署間の調整の推進です。チーム員のみならず職員の皆様の積極的関与を期待します。

今年も推進委員を中心に活動を一步でも前進できるようにしていきます。

## 平成28年度 MQI 推進委員会メンバー紹介

委員長：柳川達生（副院長・内科医師）

副委員長：金内幸子（薬剤科）

事務局：小林裕子（質保証室），角田英威（質保証室），北村智弥（事務部/庶務課）

委員：小谷野圭子（質保証室），中尾和城（臨床検査科）  
橋本健太郎（リハビリテーション科），田頭崇（放射線科）  
近藤拓也（医事課），田村美紀（3階病棟），高橋敦子（5階病棟）

## 今年度のMQI活動

4/14	4/20	5/14	7月前半	8月後半	11月	12/3
キックオフ	エントリー×切	1日で計画を立てる会	チーム別相談会①	チーム別相談会②	予演会	発表スライド×切
						発表大会
						報文集作成
						継続フォローの会

**21年目となるMQI活動がスタートします。**

**エントリーシートの提出×切は4/20（水）です。**

職員はより仕事しやすく、患者さんにはより質の高い医療を提供できるよう、多数のチームの参加をお待ちしています。

## 平成27年度 MQI継続フォローの会 2016/2/22, 29, 3/7, 14

テーマ・チーム名/ 主体部署・参加者（◎リーダー、※推進委員）	現在の状況 及び 今後の活動
<p>当院の周術期管理を エビデンスに基づき見直す (SSI WARS ep2 ～周術期管理の覚醒～)</p> <p>薬剤科 ◎林憲子 ※金内幸子 ※小林裕子</p>	<p>周術期管理を見直した運用は継続しており、対策前の問題点は解消されている。今後は手術データベースの蓄積を進め、周術期感染の要因調査や対策立案、感染率の推移の確認なども進めていく。</p> 
<p>術前準備の流れを見直す (オペ出しなんてこわくない！)</p> <p>看護部 西川千春 古閑彩那 ※黒田裕梨 ◎永利由紀子 ※田村美紀</p>	<p>術前チェックリストについては改訂が進み、3月より運用を開始した。今後は手術・麻酔承諾書の運用を早急に決定するほか、手術についてのIC内容の記録が行えるように、電子カルテのテンプレート作成を行う。</p> 
<p>インフルエンザ患者の動線の見直し (花セレブ)</p> <p>検査科 中里光宏 ◎中西真奈美 ※中尾和城</p>	<p>対策実施後は検査受付までの時間を大幅に短縮できたほか、他の患者との混在も解消され、内科職員の検体搬送業務も削減された。今後は運用手順の文書化、問題点・改善点の検討を流行期終了後に進めていく。</p> 
<p>内視鏡件数増加にともなう 検査体制の再構築 (アップル)</p> <p>内視鏡センター ※角田英威 ◎喜多哲史 森下佳子 ※近藤拓也</p>	<p>業務の分担・ローテーション化による業務の経験・習得により連携がとりやすくなり、患者満足度の向上につながっている。今後は検査件数の平準化や、健康医学センターとの情報共有による健診件数の増加への取り組みを進める。</p> 
<p>地中海食スコアを使って健康になる (オリーブ)</p> <p>糖尿病センター ※柳川達生 ◎早川かほる</p>	<p>発表大会後も引き続き学会発表や料理教室の開催を通して地域への啓発活動を継続している。また、昨年度活動時に使用した食生活に関するアンケート用紙の見直しを行ったので、アンケートの実施や食事指導も今後行っていく。</p> 
<p>ドック受診者数を増やす (かがやき1号)</p> <p>健康医学センター ※高梨徹雄 ※片岡貞子 ◎三上裕子 酒本靖子</p>	<p>運用面の支障もなく予約も希望日通りに取れているほか、レディースドックや新設ドックの受診者数も徐々に増えている。今後は広報活動の展開や受診者のニーズに応えることで更なる件数増加に向けた取り組みを検討する。</p> 
<p>勤務時間外の緊急を要する 心臓カテーテル検査・治療の円滑化 (松丸)</p> <p>放射線科 ※田頭崇 ◎圓山隆昭</p>	<p>作成したマニュアルを新人教育に活用し、トレーニングも行っており、緊急時にも問題なく対処できている。今後は看護部の当直者にもさらに教育、トレーニングに参加してもらうほか、マニュアルの改善も行っていく。</p> 
<p>胃瘻造設・管理の体制再構築 -嚥下内視鏡検査評価(VE)の組み入れ- (美食倶楽部)</p> <p>NST委員会 ※橋本健太郎 ◎栗原直人</p>	<p>胃瘻造設管理パスの運用は継続できており、使用率がアップしたほか、嚥下機能評価可能な医師の増員も図られている。今後は各病棟の担当で問題点を検討するほか、勉強会の開催も進めていく。</p> 